

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2020年6月 95号



〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com
http://keaf-japan.com



写真：養護施設のこどもたち。

子どもたちはどうしているのだろう

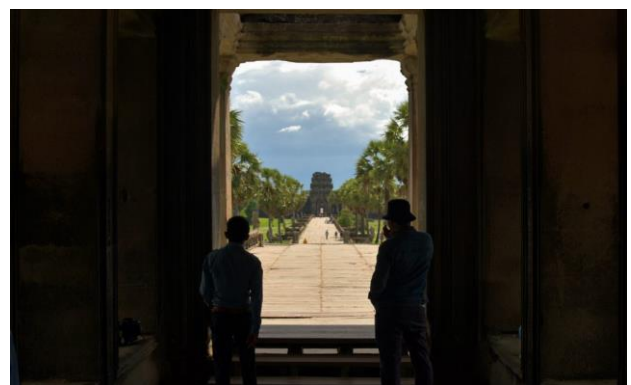
「コロナ」で現地活動停止中です

高校奨学生と教員養成所学生の奨学金を届けるために3月上旬に現地訪問に出発しようとしていた時、新型コロナウイルスの感染が広がり出して計画を一時キャンセル、そのまま現地での支援活動は停止状態が続いています。私たちの支援を待っている子どもたちはどうしているのでしょうか。特に奨学生は奨学金が途絶えたままなので、気がかりです。

7月に2021年度奨学生の選考面接を予定しているのですが、現地訪問がいつ可能になるのか、まだ見当がつかない状況です。

はインドネシア、マレーシア、フィリピンで、ベトナム、カンボジアの2カ国は、6月下旬の段階でCovid-19の感染拡大を辛うじて封じ込めているとみられている。

しかし、経済面では、もともと中国に一方的に偏っている脆弱な基盤しかないカンボジアは、主要産業の観光、衣料品輸出が大打撃を受けており、立ち直りには、今後、長期にわたり、かなりの困難が予想されると危惧する向きが多い。



写真：アンコールワット外回廊の出口から正面の中央本殿を望む。今は人影はまばらで静かなただ住まい。

伝統社会揺さぶるコロナ禍

カンボジア農村部が疲弊

池内 秀樹

地球規模の新型コロナウイルス (Covid-19) 禍が猛威を振るう中、われわれ KEAF の現地での活動も中断を余儀なくされ、少なくとも年3回のカンボジア訪問がことはまだ一度も実現していない。世界中で厳しい渡航制限が続く中、首都プノンペンへの航空便もほぼすべて中止状態であり、われわれが渡航できないのはやむを得ないとしても、観光客も一切、訪問中止。また出稼ぎで国外に出ていたカンボジアの人々も帰国の道を断たれ、いろいろな分野で苦境に直面していることが少しずつ分かってきた。世界中が多かれ少なかれ同じ状況のなかで、十分な情報が得られず断片的な部分もあるが、以下に現在 (6月下旬) 知り得るカンボジアの現状を報告したい。

現時点では死者ゼロ

カンボジア政府の公式発表はないが、Covid-19の感染者は6月初めまでに126人 (うち124人はすでに回復)、死者も出ていないとされている。この数字を裏付ける情報がなく、疑問視する向きもあるが、これを否定する別の情報が全くないのも事実だ。

東南アジアのなかでは、被害が比較的大きかったの

マイナス成長に

カンボジア経済の柱は①中国依存度の高い FDI (外国からの直接投資) ②観光 ③建設 ④アパレル品輸出—だが、世銀が5月末にまとめたところによると、カンボジアの今年の経済成長率はマイナス1%、場合によ

ってはマイナス 2.9%という 1994 年以来、最悪の事態に直面する予想である。

2019 年の成長率が 7%だったことを考えると、マイナス 1%だとしても 8%という景気後退だ。国内総生産 (GDP) の 3 分の 1 を占める観光は「停止状態」。4 月を見ると、アンコールワット観光は前年同期比 99.5%の落ち込み。主として中国からの観光客が航空路の閉鎖で全く見込めないのだから、まだ数字は出ていないが、この状況は 5 月も、6 月も、続きそうだ。

縫製工場を直撃

中途退学した KEAF 奨学生、とくに女生徒の行先は、ほとんどがプノンペン。それもプノンペン市内や郊外に出る手前の周辺部に次々とできた縫製工場だった。

地元紙は 5 月初めに、こうしたアパレル製造工場のうち 180 か所が操業停止、60 か所が操業停止寸前だと伝えた。製造しようにも中国から原材料の繊維製品の輸入がストップしたこと、たまたまコロナウイルス騒ぎが広がり始めた 2 月、欧州連合 (EU) がカンボジアに対する優遇関税の一部停止を発表し、その影響を縫製業界がまともに受ける羽目に陥ったためだ。

操業停止などで、これら縫製工場の労働者 15 万人が影響を受けているといわれる。家計の助けのために高校を中退してこれらの工場で働きに来ていた元奨学生たちはどうしているだろうか。

小口金融でつまづき

カンボジアでは近年、マイクロフィナンスと呼ぶ小口金融が農村部に浸透し、農機具、耕作用の牛の賃貸、種もみ、肥料などの購入に利用されてきた。少額の融資制度は農村地帯では、確かに便利だが、天候不順、

耕作の人手不足などちょっとした手違いが発生すると、たちまち返済に行き詰まる。

今回の Covid-19 は経済基盤の弱い農村部にまともに襲い掛かり、返済に窮した農家が耕地や耕作用の家畜を手放さざるを得ないケースが頻発しているという。KEAF の支援地域の一つ スパイリエン州のある農家では、日本円で約 100 万円の借入金の返済を迫られ 0.5 ヘクタール (ざっと半町歩) の農地を手放したという話を現地紙が紹介している。



国境閉鎖で出稼ぎ断念

その農家の人は「4、5 か月内の返済ができなければ、担保権を行使する」と言われた。タイ国境に接するシ

エムレアブ州アンコールトムのある村人はやはり 100 万円の借入金返済の猶予をしてもらえず、子ども 2 人がタイへの出稼ぎに行く予定にしていたが、コロナ禍で国境が閉鎖されてまもなく、牛 3 頭を手放した。返済条件の変更などの猶予を求めるケースは 17 万

5,000 件以上に上り、このうち 90%は支払い延期を認められたというが、こういうケースはあちこちで発生しているようだ。



会報でもすでに伝えたことだが、コロナ禍以前から農家の経営が立ち行かなくなっていた離村し、出稼ぎ労働者となってプノンペンや周辺国に流れ始めているのだが、コロナ禍はこれに拍車をかけているといえようか。

Covid-19 の惨禍はカンボジアをも巻き込んで、これまでに築き上げてきた伝統的な社会構造を揺さぶっているといえるのではないだろうか。

写真: (上) 風がさわやかな校庭で奨学生の面接をすることも多い。(中) 高校生奨学生。どの高校でも女子生徒は白シャツに黒のスカートが通学の服装になっている。(下) 奨学金を受け取り、サインする高校奨学生。

<「コロナ自粛」初体験記 >

ラジオ、ハトに餌、野草採り

内田義博

ほぼ毎日朝5時に起きラジオを聞いている。6時にNHK第二の基礎英語1・2・3(数年間、聴いています)。基礎1がやさしいので一番好き。時々、USの新しい音楽が教材でとりあげられます。

7時につがいのキジバトに餌を与えます。数年続いています。キジバトとドバトは違います。糞はみだらにしませんしドバトの様になぶり(多数)ません。庭木に巣つくりし雛が2匹かえりました。観察が日課です。

昼カラオケ(12~17時)にほぼ毎日かよっていました。英語の曲が好きで時には、基礎英語で聞いた

Top of the world-Carpenters.

Just the way you are-Billy Joel.

Lady Madonna-The Beatles~

などを歌っています。

2月25日を最後に昼カラオケは自粛。常識を共有出来ない輩がいるという報道を聞くに、命がけて趣味の昼カラオケを楽しむわけにはいきません(写真はブレイスダイの町の風通しのいいレストラン)。

時間が出来、新河岸川沿いの土手一回り6キロを午後から歩いています。からし菜、セリ、アカシアの花びら、売りが出来る程沢山取り、食卓にのせました、ダイエットには最高です。

メコン川デルタ迄はいかないが我が家の傍のこの川沿いは飢える事はありません。翔んで埼玉映画、埼玉県民は草でも食ってけそのものです。ちなみに、アカシアの花びらの天ぷらは甘味があり最高。



(写真: シアヌークビルの静かな海)

「必要なもの」の見つめ直し

山田 伸代

3月の後半からコロナによる「外出自粛」が約3カ月続き、生活は一変しました。長時間パソコンに向かう生活による影響は、まず、眼と脚に現れ、人と会って話をするのがほとんどなくなったことにより、精神面でも喪失感を覚えました。「不要不急の…は控えましょう」という掛け声が繰り返され、自分の存在まで一瞬「不要」なのかと思う自分に驚きました。

隔離生活に少し慣れてきた今「必要なもの見つめなおし」言いかえれば「必要なもの見つめなおし」

が、個人的にも社会的にも確実に起こっていると感じています。

新型コロナの発生は、地球の歴史の中で繰り返し起こる現象で、人類に課された大きな試練の一つかもしれないと思い、前向きにとらえ、ポストコロナ時代に向けて生活のしきり直

しをしはじめたところです。

外出自粛期間は、必要なことのほとんどをインターネットにつなげ、ITに依存する生活でまわっていました。一方で、これまで気が付かなかった人と会うことの重要性も改めて実感しています。

先日、あるテレビ番組で、カンボジアの今の様子が放送されていました。学校も休校になっているようで、先生が各家庭を訪問して、勉強を教えたり、子どもた



ちのようすを話しあったりしていることは、日本のように先進タブレットで授業している光景とはちがって、のどかな心を通わせる雰囲気伝わってきました。

手洗い、マスクはこれからの様子でしたが、キラキラとした目を輝かせている子どもたちの顔がみられ、KEAFの支援校の子どもたちはどうしているのかと思いをはせました。

「身の丈」の生活を目指したい

池内 秀樹

4～5月、外出は3～4日に一度、それも買い物時間を含めて往復1時間にとどめました。だから、体力の衰えはかなりだと思います。これを補おうと室内用健康マシンの自転車を1回40分、負荷を軽くして漕ぎ、6月に入っても続けました。「残り何分」と計器をにらみながらのわずか「40分」はなかなかつらいものです。しかし、この根暗なマシンの相手に我慢してなんとか毎日完走しています。

走りながらipadでNHKなどのラジオを聞いてきました。おかげで壺井栄の「二十四の瞳」や古典の「更科日記」なんてまず読むこともなかった作品の朗読を聴くことができました。今後もこれを習慣にしようと思っています（右の写真：豊かな自然の恵み。町の屋台で）。

ところで、カンボジアですが、4月13日に感染者が一人出て計124人となった後、6月初めまで感染者なし、死者もいないという驚異的な状況が続いた後、5月末から6月初めまでに2人感染者が出て126人となりました。この二人は国内感染ではなく、帰国者だったようです。どうしてカンボジアでは感染者が比較的少なかったのか。いろいろな要因があるのかもしれませんが、ひとつには、いわゆる「三密」がカンボジアにはない、ということではないか、と思い至りました。KEAFの支援対象地域であるプレイベン州のいなかに行くと、電気もないような状況ですから、同時に「三密」にもなりえないのですね。翻って日本は「三密」をものともせず、効率のよさ、生活の便利さ、快適さをひたすら追い求めてきたようにも思います。新

型コロナウイルス禍は、ここでちょっと立ち止まって、「身の丈」にあった生き方とはなにかを考えるきっかけにしたらいいのではないのでしょうか。

Zoom ミーティング体験

佐藤 三鈴

週三回はスポーツジムに通い、陶芸教室、マージャン教室と、出かけない日は無いという生活をしていましたが3月以降は急に週一回リュックを背負ってスーパーに食料買い出しに出かける以外は、ひたすら病持ちの姉と家に引き籠っておりまして。これではコロナ太りにならない方が不思議で3キロも体重が増えてしまいNHKのラジオ体操位では防ぎようがありません。

その間あたらしい経験としては、友人がZoomミーティングに招待してくれ、PCの前で乾杯したりして大変盛り上がりました。何となく現代の若者達の世界に一寸触れた様な気がして、大いにストレス解消になりました。

また3月初めに姉が真夜中“胸が苦しい”と私のベ

ットルーム来たときは背筋が凍る思いがいたしましたが、ニトロンを2錠飲ませたらやっと収まりました。主治医の先生から3錠飲んでも狭心症の発作が止まらない時は救急車を呼ぶようにと言われていたのではとしました。

脈が230まで上がり苦しいと言いながら彼女が発した言葉

は「私まだ遺言を書いていない！」には驚かされました。それからこのコロナ籠城生活の間に「遺言」と云う事を真剣に考えなければと思い作業を始めました。しかし今まで漠然と考えて居たことを文章にする事は容易でなく、いろいろ考えていると眠れぬ夜が続きます。しかし逃げては通れないと今取り組んでいる所です。

新型コロナが無ければこの7月にはカンボジアに行き子供たちのキラキラした目に合うことが出来たのに、本当に残念でなりません。でも人間の持っている叡智でこの苦境を乗り越え、カンボジアの子供達にも会える日が来ると信じています。



「新しい生活」を楽しんでいます

石山 路子

新型コロナの影響で歌舞伎、語学サークル、友人達とのランチ会、毎月入っていた予定が続々キャンセルになり、3月から5月までの予定がすべて消えた。そして同じ区内のスポーツジム、病院、デパートでも感染者が出始めた。若いつもりでも今年は後期高齢者の仲間入り、感染したら大変だ。

外出をしないのが一番だが運動不足も心配、夕方目の前の鶴見川の土手を歩くことにした。しかし、テレワークが増えてきたのか、次第にウォーキング、犬の散歩、ジョギングと人が増えてきた。これでは運動不足解消どころか感染のリスクが高くなるので、歩くのはやめにした（写真：時には先生たちと食事）。

家にいれば感染の心配もない、エレベーターで1階に下りると生活クラブ・デポがある。組合員制なのでそんなに混まない。そこで食料品を買う以外の外出は避けた。家にいても友人達とはライングループで繋がっている。毎日トークでのメールが盛んで退屈はしない。

4月に入って早々、今年も友人の弟さんが掘りたての筍を届けて下さった。茹でた筍でネットの動画を見ながら初めて瓶詰を作った。友人の庭で実ったレモンも冷蔵庫に入れたままだったので絞って瓶に詰めて冷凍した。楽しい作業だ。

これで火が付き、冷蔵庫の整理も兼ねて料理作りにも励んだ。クリームコロッケ、串揚げ、ハンバーグ、シューマイ、餃子、かに玉、色々作った。出来上がると甥夫婦に電話をして取りに来て貰った。小学一年と保育園の子供を抱えているので、料理が一番助かると喜んでくれるから、作り甲斐があると言うもの。かくして自粛生活も終了し、6月から語学サークル、友人とのランチ会が復活した。でも歌舞伎の再開はいつになるかわからない。

ちょっと太ったかも

岡宮 喜雄

支援している学校の小中高のみなさん、元気になっているかなあ～～？。

昨年11月に訪ねてから想定外のコロナ禍で今年3月の奨学金支援持参もできなくなり、いまでもみんな首を長くして待っているのではないだろうかと思うと

申し訳ない気持ちが一杯でなりません。

例年7月初めには新年度の奨学生の面接に行くはずの予定もたたく、待っている生徒たちの顔が浮かぶばかりで本当にコロナ禍が恨めしくなりません。一日も早く元気なこどもたちと再会できることを願ってやみません。

さて、外出自粛だ、3蜜を避けろだのと、小生も普段の生活行動が制限されて窮屈な毎日を過ごしているわけですが、だからといって外出自粛といっても最近あまり出歩くこともなくなり格別気にはなりません。ただ毎週土曜日の運動は正に密集密接のため練習は4月以降中止となり身体がうずうずしているこの頃です。

外での飲み会もなくなり、さりとてオンライン飲み会もガラケーの自分では参加できず家で一人寂しく猪口を傾けてばかり、週2回ほどの散歩もあまり効果が無いようで、お医者さんから少し太ったのではないかとと言われる有様です。

早くコロナ禍から脱出し安心安全に月例会が開かれみなさんと楽しくお会いしたいです。

「3食」のありがたさ

金子 敦郎

コロナ蔓延で「閉門生活」を強いられた一番こたえたのは、あなたに毎日3食べさせるなんて大変よと妻に言われて、小さくなって過ごさなければならぬことです。（＜「コロナ自粛」初体験記＞7頁下段に続く）



ありがとうございました (2020年2月21日～2020年6月28日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に厚くお礼を申し上げます(敬称略させていただきます)

(神奈川) (大阪) (神奈川) (東京) (東京) (東京)
 (静岡) (千葉) (埼玉) (東京) (神奈川)
 (東京) (神奈川) (埼玉) (東京) (東京) (東京)
 (神奈川) (秋田) (群馬) (神奈川) (兵庫) (東京)
 (神奈川) (東京) (東京) (神奈川) (埼玉) (神奈川)
 (京都) (神奈川) (神奈川) (東京) (東京)
 (神奈川) (東京) (東京) (大阪) (福岡)
 (愛媛) (東京) ※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています。 ※奨学生紹介の7頁上は個人情報保護のため省略

<「コロナ自粛」> (7頁からの続き)

「コロナ」のワースト・スリー

幸いなことに、安倍首相が次から次へと腹を立てさせてくれるし、アメリカからは緊張感の高いニュースが続いているので、退屈はしないで済んでいます。

みなさんには案内しましたが、この3月に昔の仕事仲間(老記者ばかり)と「Watchdog21.com」を名乗るニュース・ブログを立ち上げたところだったので、ニュースのネタがあふれるという幸運にも恵まれました。

現役の記者諸兄姉には手が回らない情報の深読みとか、ちょっと立ち止まってものを見るといった視点からの解説記事を現役に戻ったつもりで10本ほど寄稿しました。

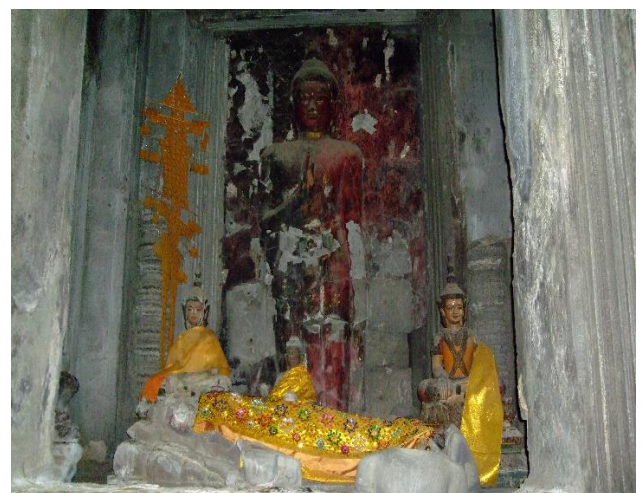
コロナ禍というのは、しょっちゅう起こることではないので、世界中のリーダーが右往左往しましたが、その中でも優劣ははっきりしたと思います。安倍某はトランプ(米国)、ジョンソン(英国)と並んでワースト・スリーでしょう。なかでもトランプ某は本当にひどい。

彼はご存じのように、自分に都合の悪い報道や批判はすべて「フェイク」か「陰謀」と切り捨て、自分の言うことだけが真実であり正義だという人物です。確かに世の中のことは、どちらから見ても本当だったり、嘘だったりすることも少なくありません。アメリカには彼の言うことしか信じない人が相当数いるというのが現実です。しかし、「コロナ」はそうはいきませんでした。

「大統領選挙で私を追い落とすために民主党が大騒ぎしているだけだ」とか「春になって暖くなればウイルスはどこか消えるだろう」と高をくくっていました。

でも、米国は最悪の感染国になり、感染患者が病院にあふれ、病死者が続出で遺体安置所もないといった「事実」はいくらトランプでも隠しきることはできない。彼の嘘がついにばれてしまいました。

そこに手錠をかけられ組み敷かれて無抵抗の黒人が白人警官に締め殺される事件が起きました。これをきっかけ



に、米国は大きな転換期に入ったと考えています。11月大統領選挙の重要性がますます高まってきました。

写真上：6月初めのアンコールワット正面参道。日頃はいつぱいの外国人観光客に代わって、近隣のカンボジア人が観光にきているのでしょうか(地元紙から)。

写真下：アンコールワット第2回廊の釈迦像。アンコールワットは12世紀前半に建造されたヒンズー寺院。建造後に仏教徒が持ち込んだとみられています。同世紀後半建造のアンコールトムは仏教寺院。この時期は仏教への移行期でした。